

# 定期作況報告

(第3号 平成27年7月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

6月下旬：平年に比べ、平均気温は3.5℃低く、降水量は7mm少なく、日照時間は19.7時間少なかった。夏日（最高気温25℃以上30℃未満）は1日であった。

7月上旬：平年に比べ、平均気温は3.7℃低く、降水量は3.3mm少なく、日照時間は7.7時間多かった。夏日は2日であった。

7月中旬：平年に比べ、平均気温は1.1℃高く、降水量は37.2mm少なく、日照時間は20.2時間多かった。夏日は7日であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	15.3	18.8	▲ 3.5	16.9	20.6	▲ 3.7	21.0	19.9	1.1	17.7	19.8	▲ 2.1
最高気温(℃)	19.6	25.2	▲ 5.6	22.1	26.3	▲ 4.2	26.7	25.5	1.2	22.8	25.7	▲ 2.9
最低気温(℃)	11.1	13.4	▲ 2.3	11.9	15.9	▲ 4.0	15.8	15.6	0.2	12.9	15.0	▲ 2.0
降水量(mm)	17.5	24.5	▲ 7.0	26.0	29.3	▲ 3.3	14.0	51.2	▲ 37.2	57.5	105.0	▲ 47.5
降水日数(日)	5.0	3.5	1.5	3.0	2.9	0.1	4.0	3.8	0.2	12.0	10.2	1.8
日照時間(hr)	43.7	63.4	▲ 19.7	61.6	53.9	7.7	74.3	54.1	20.2	179.6	171.4	8.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲：やや不良

5月20日現在：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月15日に行った。播種後平年より日照はやや少なかったが、高温に経過し出芽は良好であった。育苗期間中の天候は4月中旬、日照は少なかったが高温で、4月下旬から5月上旬は高温多照に経過し、苗の生育は平年より進んだ。5月中旬、気温は平年並みで日照は少なかったが、苗の生育は順調であった。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の草丈は平年より1.5～2.3cm高く、第1葉鞘高は平年並であった。主稈葉数も平年並みで、地上部乾物重は平年より0.37～0.59g重く、苗素質は平年を上回った。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

6月20日現在：やや不良

事由：移植時からの低温・日照不足により植え痛みが見られたが、5月末の高温・多照により活着は良好であった。6月1半旬から3半旬の低温・日照不足により生育は大きく遅れ葉色も黄化した。4半旬が高温となり生育は回復しつつあるものの、主稈葉数は平年に比べ0.5～0.6枚少なく、草丈も低く、㎡当たり茎数は19～23%少ない。これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬の低温・日照不足と7月上旬の低温により生育は遅れて、幼穂形成期は平年より3～4日遅く、止葉期は平年より6～8日遅くなった。7月中旬の高温・多照により生育はしだいに回復し、7月20日の葉数はほぼ平年並みで、茎数は平年並みからやや多かったものの、草丈は平年より6.4～8.3cm低かった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

表2 7月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			きらら397			ゆめびりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	
	幼穂形成期 (月日)	6.26	6.23	3	6.29	6.25	4	6.26	6.23	3	
	止葉期 (月日)	7.15	7.08	7	7.16	7.10	6	7.15	7.07	8	
	出穂期 (月日)		7.20			7.21			7.19		
	成熟期 (月日)		9.08			9.12			9.05		
	穂揃日数 (日)		8			7			8		
	登熟日数 (日)		51			53			48		
	生育日数 (日)		147			151			144		
移植時	草丈 (cm)	15.0	13.5	1.5	15.0	12.8	2.2	15.3	13.0	2.3	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.3	4.1	0.2	4.2	4.3	▲ 0.1	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	1.9	1.9	0.0	1.9	2.0	▲ 0.1	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.4	▲ 0.1	2.5	2.4	0.1	2.5	2.4	0.1	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.73	4.36	0.37	4.75	4.16	0.59	4.66	4.27	0.39	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.9	8.4	▲ 0.5	8.3	8.8	▲ 0.5	8.2	8.8	▲ 0.6
		7月20日	10.4	10.4	0.0	11.0	11.2	▲ 0.2	10.8	10.7	0.1
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	473	615	▲ 142	619	696	▲ 77	543	695	▲ 152
		7月20日	745	739	6	879	776	103	849	823	26
草丈 (cm)	6月20日	33.8	40.6	▲ 6.8	31.6	35.1	▲ 3.5	33.9	38.9	▲ 5.0	
	7月20日	75.9	84.2	▲ 8.3	67.5	75.5	▲ 8.0	75.8	82.2	▲ 6.4	
成熟期	稈長 (cm)		68.8			63.1			65.0		
	穂長 (cm)		16.5			16.6			16.6		
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )		680			714			760		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		50.4			44.5			43.4		
	m <sup>2</sup> あたり粒数 (×千)		34.3			31.6			32.9		
	稔実歩合 (%)		96.4			95.7			95.4		
	m <sup>2</sup> あたり稔実粒数 (×千)		33.1			30.3			31.4		
	同上記 (%)		100			100			100		
	登熟歩合 (%)		89.0			86.1			84.7		
	籾摺歩合 (%)		81.2			80.6			79.0		
	屑米歩合 (%)		2.1			2.1			3.3		
精玄米千粒重 (g)		22.6			23.6			23.0			
収量	藁重 (kg/10a)		649			626			622		
	精籾重 (kg/10a)		830			817			812		
	精玄米重 (kg/10a)		673			658			641		
	収量平年比 (%)		100			100			100		
	検査等級 (等)		1下	-		1下	-		2上	-	

注 1) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 7.2g, K<sub>2</sub>O 3.0g、

置床 N 27.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 34.0g, K<sub>2</sub>O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 9.7kg, K<sub>2</sub>O 6.9kg、堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：やや良

5月20日現在：並

事由：根雪始は平年より5日遅く、根雪終は平年より12日早く、積雪期間は平年より18日短い122日となった。雪腐病発病度は平年並で、越冬茎歩合は平年より高かった。根雪終が平年より早く、融雪後の気温が平年より高く推移したため、生育は平年より進んでおり、平年に比べ草丈は高く、茎数はやや少ない。

したがって、目下の作況は「並」である。

6月20日現在：並

事由：融雪期は平年より12日早く、その後の生育も良好であったため、出穂期は平年より4日早い6月2日となった。6月上旬が低温・寡照に経過したため、この間の生育はやや緩慢となったが、現在の草丈は平年より高く、茎数は平年並である。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在：やや良

事由：出穂以降、低温傾向で経過したことから、登熟はゆるやかに進んでおり、現時点で成熟期には未達である。登熟期間が平年より長く、7月上旬以降日照時間も確保されているため、子実の充実が期待される。穂数は平年並で、稈長と穂長は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表3 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	9.14	9.15	△ 1
出芽期	(月.日)	9.24	9.24	0
出穂期	(月.日)	6.02	6.06	△ 4
成熟期	(月.日)		7.18	
越冬茎歩合	(%)	132.8	128.2	4.6
雪腐病発病度		10.9	12.1	▲ 1.2
葉数(枚)	平26年10月20日	4.3	4.4	▲ 0.1
草丈 (cm)	平26年10月20日	15.7	18.5	▲ 2.8
	平27年 5月20日	48.6	38.4	10.2
	平27年 6月20日	95.5	86.5	9.0
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平26年10月20日	633	723	▲ 90
	平27年 5月20日	1304	1366	▲ 62
	平27年 6月20日	661	685	▲ 24
成 熟 期	稈長 (cm)	89	78	11
	穂長 (cm)	9.2	8.6	0.6
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	656	633	23
子実重	(kg/10a)		646	
同上	平年比 (%)		100	
リットル重	(g)		804	
千粒重	(g)		39.2	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦：やや良

5月20日：やや良

事由：融雪が早く、播種期は平年より5日早い4月14日であった。出芽期は平年より4日早い4月29日となった。出芽後、気温が高く経過したため生育は良好で、草丈、茎数は平年を上回っている。したがって、目下の作況は「やや良」である。

6月20日：やや良

事由：出芽期は平年より4日早かったが、6月上旬が低温・寡照で経過したため生育は停滞し、出穂期は平年より1日遅くなった。草丈および茎数は平年を上回っている。したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日：やや良

事由：稈長と穂数は、ほぼ平年並であり、穂長は平年を上回っている。したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 7月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.14	4.19	△ 5
出芽期	(月.日)	4.29	5.03	△ 4
出穂期	(月.日)	6.18	6.17	1
成熟期	(月.日)		7.28	
草丈 (cm)	5月20日	24.7	21.0	3.7
	6月20日	87.1	81.0	6.1
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	958	686	272
	6月20日	842	708	134
成 熟 期	稈長 (cm)	94	92	2
	穂長 (cm)	9.6	8.7	0.9
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	523	509	14
子実重	(kg/10a)		490	
同上	平年比 (%)		100	
リットル重	(g)		791	
千粒重	(g)		40.1	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆：並

6月20日現在：並

事由：播種期は平年より3日早い5月19日であった。播種後の適度な降雨により出芽が揃い、出芽期も平年より3日早い5月31日であった。6月上旬の低温により生育がやや停滞し、主茎長、主茎節数とも平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在：並

事由：6月下旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過したことから、開花期は平年より5日遅れた。主茎長は平年を下まわっているが、主茎節数、分枝数とも平年並となっている。

したがって、目下の作況は「並」である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月・日)	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月・日)	5.31	6.03	△ 3
開花期	(月・日)	7.16	7.11	5
成熟期	(月・日)		9.22	
主茎長 (cm)	6月20日	10.3	12.0	▲ 1.7
	7月20日	55.5	65.4	▲ 9.9
	8月20日		72.8	
	9月20日		73.0	
	成熟期		73.7	
主茎 節数 (節)	6月20日	3.5	4.4	▲ 0.9
	7月20日	10.6	10.3	0.3
	8月20日		10.4	
	9月20日 成熟期		10.6	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.0	6.9	0.1
	8月20日		7.3	
	9月20日		5.9	
	成熟期		5.7	
着莢数 (個/株)	8月20日		85	
	9月20日		74	
	成熟期		73	
子実重	(kg/10a)		424	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		37.8	
屑粒率	(%)		3.6	
検査等級	(等)		3上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

5) 小豆： やや不良

6月20日現在：並

事由：播種期は平年より2日遅い5月26日であった。播種後は、適度な降雨により出芽が揃ったが、6月上旬の低温により出芽期は平年より3日遅かった。そのため、主茎長、本葉数とも平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月上旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過し、分枝数は平年並みであるが主茎長、本葉数とも平年を下まわっている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		5.26	5.24	2
出芽期 (月.日)		6.11	6.08	3
開花期 (月.日)			7.22	
成熟期 (月.日)			9.4	
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	4.8	▲ 1.0
	7月20日	19.9	38.8	▲ 18.9
	8月20日		65.6	
	成熟期		67	
本葉数 (枚)	6月20日	1.2	1.5	▲ 0.3
	7月20日	8.4	9.7	▲ 1.3
	8月20日		13.0	
主茎節数 (節)	成熟期		15.0	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.4	6.0	0.4
	8月20日		5.6	
着莢数 (個/株)	成熟期		54	
	成熟期		59	
子実重 (kg/10a)			325	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			12.6	
屑粒率 (%)			3.4	
検査等級 (等)			3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、平成22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： やや良

6月20日現在：並

事由：植付けは平年より1日早かったが、萌芽期は平年より1日遅かった。6月上旬は低温であったが、適度な降雨により、茎長は平年をやや上回っている。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過し、開花始は平年より4日遅れた。茎長、上いも数、上いも収量、でん粉価とも平年を上まわっている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.08	5.09	△ 1
萌芽期 (月.日)		5.28	5.27	1
開花始 (月.日)		6.26	6.22	4
枯凋期 (月.日)			8.29	
茎長 (cm)	6月20日	41.9	36.8	5.1
	7月20日	55.0	50.1	4.9
上いも数 (個/株)	7月20日	11.7	9.6	2.1
	8月20日		11.1	
上いも平均一個重 (g)	7月20日	68	81	▲ 13
	8月20日		100	
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3504	3388	116
	8月20日		4871	
でん粉価 (%)	7月20日	15.5	13.9	1.6
	8月20日		15.1	
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.8	
	上いも平均一個重 (g)		102	
	上いも収量 (kg/10a)		4777	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4243	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		3989	
	同上平年比 (%)		100	
でん粉価 (%)			15.1	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、23年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。